

ああ、 結婚！

—婚活日記—

第29回

黒田長宏

<2023年11月26日>

私の出来る方法で最大の場は、「婚難救助隊」という名前を付けた YouTube であるが、登録者数が大事であり、既に1000動画を超えてしまった後に、登録ボタンをようやく意識して、ここ数日で、登録ボタンの設置と、動画に「登録お願いします」というテキストを付けることを始めた。まだ工夫できる点が YouTube 以外にもあるのかも知れないのだが。年齢の社会イメージに負けてはいけな
いと思いたいのだが。

<12月17日>

56歳という年齢も「先入観」で結婚を難しくするんじゃないかと思っている。思っているというより、そうしてしまっている。朝ドラの「ブギウギ」では女性のほうが9歳年上というのが「先入観」になっている。実際の婚活の現場でも、例えば相手が8歳以内など、「先入観」に抑制されてしまう。

<12月31日>

今年も結婚することが出来なかった。それは不可能なほどに難しく思う。

<2024年1月6日>

元日から大変な事が起きた。関東でも久しぶりの揺れだと思ったが、テレビをつけたら大事だった。そして翌日の2日。被災地へ支給しようとしていた海上保安機が日航機と衝突するという付随したような大事故が起き、海上保安官5名が死亡したが、後日、テレビを付けたら、知ったような名前が出てきた。そしてそれは高校時代の弓道部で一緒に部活をした男性だった。彼は最初の仕事が決まったときにも、年賀状だっただろうか、通知を受けていたという記憶がある。彼は最初と最期に私に通知してくれるほどの律義さを示したのだろうか。

私は婚難救助隊などと銘打って、YouTubeをしているが、思わぬ事故で突然に久しぶりに、私に高校時代を思い出させて亡くなられた彼は、この事故さえなければ、自衛隊を50代半ばまで勤めあげ、中国の動向を意識したからか、

50代半ばとは、今後どう進んでいけばいいのかと再び考えざるを得ない年齢であり、海上保安庁という場所への転身を選んだのだろうか。まさかそれが命を失うルートになろうとは思ひもしなかったであろう。

私はこれを提出するまで生きているかはわからないとしても、まだこうして書いている時点で生きている。彼は自衛隊から海上保安庁という進路ならば金には困らない、きっと東日本大震災や熊本の地震そのほかの災害でも活躍してきた立派な人生を送ってきたに違いないと思うが、比較する必要もないにせよ、私は、遅ればせながら、かなり遅ればせながら、YouTubeを活用して、結婚難から孤独死まで起きてしまっている、この日本の現状に、決してそれは自己責任などではないはずだ。社会のせいだ。日本のせいだ。結婚難問題を当事者として、もっと憤らねば、真剣なアピールは出来ないだろうに。突然の彼の訃報は、私の甘さを指摘されているように思われた。

<1月28日>

前回、高校時代の部活の同僚の死を報じたが、1月23日に午前3時に私は胸に締め付けられる不快を感じ、救急車を呼ぶべきだったのだが躊躇し、来院して検査して突然車いすに座らされ、高速道を通り救急病院に搬送された。ネット情報では既に遅いくらいだったが、カテーテルでステント処置を受け、23日から27日朝まで入院していた。そして

今朝実家でこうしてパソコンの前に座っている。

私は自らの結婚難問題をこの世でなんとかして欲しいから、こうしてネットや許可を与えてくれたところでパフォーマンスさせていただいているが、ご存じのように、このところ、精細もない短い投稿の連続だと思う。それは今後もわからないのではあるが、自らの焦燥感として、今思えば、(思えるからであるが)全然自らも含め、結婚難問題解決になんにも寄与できない状況のままである。そしてかなり高度に死をまじかにしてしまい、私の願いはこの世では未遂に終えていたことになる。

インパクト部分として書いておかねばならない。

くなぜ、結婚している人がいるのに、結婚したいのに結婚できないまま孤独死する人がいるのですか？私のその犠牲者の一人で終えてしまうのですか？原始からの生命の流れも止めざるを得ないままに・・・>

テレビ新聞ではほとんど隠されるだろうが、有名 SNS では、あえて抽象的にとどめるが、週刊誌報道による芸能人の性的暴行の話題が連日流れ、アダルトビデオ業界というグレーゾーンの関係者や、過去に性的スキャンダルにさらされた評論活動をされている人物などが反応して何度もその事件をコメントしている。

なぜ、一方で結婚したいのに結婚できず、少子化問題まで出てきてしまい、一方ではフリーセックスに罪も恥も感じない男女が現れてしまっているのだろうか。

私はその貞操的な感覚の不統一性が、社会の乱れ全体に影響しているのだと思っている。

私は書いておかねばならない。

日本の男女関係の乱れた時代のせいで、私は結婚もできず子孫も途絶えさせてしまうことになるのか。そして56歳で心筋梗塞を発症してしまったというハンディキャップを背負ってしまった。自らの不摂生や認識の甘さがあるとは言え、洒落にならない日本のまま生まれたのに一矢も報えず死んでいくのか。なんの影響もこの世に与えられずに……。

結婚したい人は結婚できる国にして欲しい。結婚したい人がほとんどになる国にして欲しい。

その基本路線の中で、身体的精神的など不都合な人のケアを必要とする温かい心の社会にして欲しい。

現在までのように、女性が男性暴力（実際にそれがあつたのを今回の入院でも見せつけられた面もあるが。妻娘を早朝呼び出してわめく悲しき老人男性。その拝啓には病気による都合、薬物投与の影響、身体的不快感その他あるにせ

よ、客観的には深夜に病室の壁を蹴り、女性看護師がほとんどつきっきりになり、同室者は眠られず、などなどに遭遇した。)どころか、男性をこきおろすまでになったことが男女平等なのか。そうした平等はラフな関係でも尊厳の仕合という感受性とは違っている。霊性の消えたラフな関係。アメリカのミュージックビデオなどみると、誰も批判しないが、あのいやらしさはなんなのか。それは自由や平等の一つの表現だとしても、なにか質的に感性的に、例えば清らかさというような面を飛ばしたうえでの男女平等のようなパフォーマンスではないのか。それが少しずれると性的にフリーな感覚の男女のパーティーになってしまうのではないのか。

そして一方、その影として、結婚したいのに結婚できず孤独死に追い込まれてしまった人達を生み出していくのだ。

現在のところ、私は母親が78歳存命で孤独死ではなく、死んだら逆縁なのだが、他の人達も、実は孤独死を、命を助けられたのに申し訳ないが、しかも職場もそういうところではあるが、病院や介護施設などで、貯めてきたお金を切り崩しながらなんとか死んでいくのだろう。血縁のない家族というのも大事な精神的支えになる希望のパターンかも知れないが、ほとんどがこのままでは、企業や役所などの血縁家庭以外の場所で〈お金〉を得て、夜勤もあつたりクレーム対応もしたり(実際、患者をはかっている

のかも知れないが、つっけんどんな女性看護師もいる。人手不足もあろう。

一方で、若い女性である女性看護師が老人とは言え、男性の下の世話をせざるを得ない。プロ意識とは言え、私もおしめの交換と身体の洗浄でそういう場面に遭遇したが、金目当てのビデオプロダクションに参加できる変態たちは、そういう場面を茶化すようにアダルトビデオのネタの一場面として、その行為の意味を改変してしまうのだろう。もっと考えれば別に、機械を使う方法など発明して、女性看護師は男性の下の世話をしないで他の、血圧や脈拍などの計測をさらに丁寧にする時間捻出と考えられないのかは、きっと、一般社会が、フリーセックスに寛容になり、貞操感覚を減少させてしまったところからの無視であろう。

文章表現には、文献を調査して記す方法もあろうが、実体験して気づき、記すことができる方法もあるのだろう。なるべく病気での実体験はしたくはないのだが。

今回の入院で差し込み便器というのを知った。私は尿道につけられたように肛門に差し込むのかと本気で思って聞いてしまったが、廊下で看護師が同僚に、「なんであんな発想するんだろう」と驚いていたのが聞こえた。なんのことはない。超小型の便器を人体とベッドの間に差し込むだけのことだった。だけどこれがおむつに出すよりも精神的には助かった。これも、提灯のじゃばらのように

して平らから高さをつけたり、ベッドの中央に窪みがあればもっと仰向け排便は楽だろうと思った。

他にも、今回私は意識を失わなかったのだが、その当人にリアルタイムで心筋梗塞とか言われると

死ぬのかなと思いながら小一時間待つのは精神的に発狂しなくなるような人もいるかも知れない。私はもう発症からわけのよくわからないままに流されてしまった。無知が原因だ。

無知と言えば学校教育だって、性教育だって物的性教育だったりするだけなのだろう。コンドームがなんだかんだいう前に家族の大切さ、男女の精神的つながり、そうしたことを教育してあれば、氷山の一角の芸能界で、婚外交渉を強制した、しないなどという疑惑なんかなかったはずだ。

そうした性のゆがみが、論は省略するが、キックバック事件や原発再稼働にも通じているのだ。

もとをただせば、男女の愛しみから生命は生まれる。それを混乱させてしまっている中で何もできずに死の危険が私に近づいた。私自身が甘かったから、私の知る限りの人類の状態にあるのだ。